

滝議第1425001号

令和2年2月25日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

環境厚生常任委員会

委員長 齋藤 明

環境厚生常任委員会所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を次のとおり終了したので会議規則第77条に基づき報告  
します。

記

- 1 調査事件  
健康体操について
- 2 調査結果  
別紙のとおり

## 1 調査事項

健康体操について

## 2 調査理由及びその目的

本市は「健康づくり宣言」をし、それに基づいた様々な施策を講じている。

このことから、健康づくり意識の更なる醸成のため、市内全域、全世代に浸透、定着されるような「健康体操」について調査研究を行うものである。

## 3 環境厚生常任委員会委員

委員長 齋藤明

副委員長 藤原治

委員 遠藤秀鬼、川口清之、井上仁、山谷仁

## 4 調査内容

### (1) 調査経過（関連資料は別添）

開催日等	内容
令和元年10月15日（火）	【委員会内協議】 ＜協議の概要＞ 委員会の所掌範囲より所管事務調査項目を検討し、決定した。
令和元年10月17日（木）	【委員会内協議】 ＜協議の概要＞ 調査内容、スケジュール等を協議し、調査項目設定シートを作成した。
令和元年11月5日（火）	【担当課の事務調査】（資料1） ＜調査の目的＞ 担当課に対し説明聴取を行い、今後の取り組みにおいて重要な事項を抽出した。 その協議内容を踏まえて先進事例の調査の必要性を確認し、新たな健康体操について先進的取り組みを行っている自治体の視察を行うことを決定した。  ＜担当課調査の内容＞ ・滝沢市独自の健康体操について

開催日等	内容
令和元年11月27日（水）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>視察先の検討、各視察先への質問事項の協議を行った。</p>
令和2年1月10日（金）	<p>【委員会内協議】（資料2、3）</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>市の発表資料より、「健康ダンス普及プロジェクト」が進行していることを確認した。</p>
令和2年1月15日（水） ～令和2年1月16日（木）	<p>【行政視察】</p> <p>&lt;視察の目的&gt;</p> <p>「プロモーション方法」と「体操内容」に特徴があり、先進的な取り組みを行い、実績のある自治体への行政視察を行った。</p> <p>&lt;視察先及び内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県久喜市 『クッキーダンス』について</li> <li>・埼玉県三郷市 『すこやかみさと健康体操』について</li> </ul>
令和2年1月27日（月）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>事務調査（行政視察）やこれまでの調査における各委員からの意見等を踏まえ、調査報告内容の協議を行った。</p>
令和2年2月13日（木）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>調査報告書の内容について、字句等の整理を行った。</p>
令和2年2月25日（火）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>調査報告書の内容について、字句等の整理を行った。</p>

## (2) 特記事項

行政視察

(ア) 埼玉県久喜市【令和2年1月15日(水)】

埼玉県久喜市の『クッキーダンス』は、シティプロモーションの手段の一つとしてのPRビデオ作成時に創作されたものであり、プロの振付師に依頼し、振付けされた。

市親善大使の一人、タケカワユキヒデ氏が作詞作曲した市の歌「笑顔のまち永遠なれ」をBGMに使用し、「市民が参加すること」に重点を置いた。

「ダンスを通じた地域文化の創造」を目的に、市の歌をダンス調にアレンジし、3千人以上の市民参加の元、平成28年度にPV第2弾の中で初めてダンスが採用された。

インターネットでの動画視聴機会が多く、情報拡散力のある小学生から高校生をメインターゲットとしており、YouTubeの人気コンテンツである『踊ってみた』等での動画によるダンスの認知度アップを狙っている。

クッキーダンス第2弾として29年度に作成された動画は、平成30年1月時点で再生回数60万回を超えており、認知度の向上と共に、小さい子供から高齢者までの幅広い市民から「踊ってみたい」との問い合わせが多数寄せられた。

このことから、地元高校のチア部に親善大使を委嘱し、様々な団体等への出張レッスンに取り組んでもらっている。

また、音源は市のHPからダウンロードが可能であり、テンポの異なる3バージョンを提供している。

さらには、親善大使の高校チア部が考案した、着座バージョン、簡単アレンジバージョンもあり、高齢者にも広がりを見せている。

(イ) 埼玉県三郷市【令和2年1月16日(木)】

埼玉県三郷市の『すこやかみさと健康体操』は市健康増進計画会議にて「町会でのラジオ体操の時間を交流の機会として活用したい」との提言により創作された。

埼玉県立大学理学療法士、NPO法人日本健康運動指導士会の協力のもとに市民の歌「若い三郷」をBGMに取り入れ、市民の体操として作成された。

体操には立位と座位の2種類があり、子供から高齢者までが無理なくできる体操となっている。

普及方法としては、市による図解書や動画の作成、配布のほか、普及講習会受講者には普及スタッフとして活動してもらっている。音源や映像は市のHPからも閲覧が可能であり、自ら市役所にCDやDVDを持参すれば、動画、音源入りのものと交換できる。

普及スタッフが様々な場所で普及活動を行っており、市内イベントでのステージ発表における参加人数は伸びを見せている。

上記自治体の視察結果を表にまとめた。

	質問事項	(ア)『クッキーダンス』 (資料4)	(イ)『すこやかみさと健康体操』 (資料5)
1	作成の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の一体感や愛着心の醸成、市の認知度向上のため作成 (平成28年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラジオ体操の時間を交流の機会として活用するため作成 (平成21年度)</li> </ul>
2	作成時の予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>2,677千円 PRビデオ作成 (ダンス以外も含む) (プロポーズによる随意契約)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>242千円 (内訳) 委託料 210千円 報償費 32千円</li> </ul>
3	専門家等の参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロダンサー(振付け)</li> <li>音楽プロデューサー(編曲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県立大学理学療法士</li> <li>NPO法人日本健康運動指導士会</li> </ul>
4	普及取組みの手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRビデオに親善大使の元AKB48メンバー等タレントを起用</li> <li>地元高校チア部を核に定着</li> <li>各種メディアへの登場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及スタッフによる周知活動</li> <li>図解書、動画、CDの作成</li> <li>町会や団体等での体操指導</li> <li>イベント等でのステージ発表</li> </ul>
5	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内外の各種イベントで披露 (各種競技大会、Bリーグ等)</li> <li>小学校運動会で児童が披露</li> <li>高校チア部、市職員によるダンスレッスン(依頼)が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約100名が普及講習会終了</li> <li>イベントへの一般参加者の増加</li> <li>ラジオ体操参加者の増加 (約45人/回)</li> <li>H29第2回体操甲子園 優勝</li> </ul>
6	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>メインターゲットと考えていた中高生などの若者への普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知度が低い(H28調査…4.5%)</li> <li>スタッフの指導技術の維持と向上</li> </ul>

## 5 考察

本市は今年度からの滝沢市総合計画後期基本計画の中で、幸福感を育む環境づくりに向けた戦略として「健康づくり」と「若者定住」を柱として定めている。

健康づくりの取り組み状況を把握するため健康推進課より現状聴取を行った結果、既に健康づくりを目的としたオリジナル体操があり（タオル体操、玄米ダンベル体操）、高齢者を対象として普及を行っていたが、認知度は決して高いと言えるものではなかった。

本市の健康づくりに関する調査結果からは、60歳未満、特に30歳代の運動習慣の少なさが課題となっており、担当課では当該世代を対象とした「滝沢市健幸体操プロジェクト」を作成し、新たな健康体操の作成準備が始められていたが、今後は認知度を高めるための取り組みが必要となる。

「健康づくり」の一環である「健康体操」の普及に向けて取り組むにあたっては、視察先でも確認されたように、市民の幅広い協力が必要であり、尚且つ幼児から高齢者までも取り組んでもらえるダンス系の体操と多様なバージョン（テンポと体位など）が求められ、AKB48やNHKの2020応援ソング等を彷彿させる様な「踊ってみたい」と思わせる事が一層の促進につながると考えられる。

また、インターネット環境も可能な限り活用し、継続性のある普及メンバーを保育園、幼稚園、小中学校等に派遣することで、担当課がメインターゲットと捉えていた働き世代の父兄への波及効果が期待できる。さらには高校、大学のダンスサークル等を巻き込むことによる若者世代へのPRも重要な要素と考えられる。

地域づくり推進課が主体となって、専門家や一般市民を巻き込んで取り組む「Amatar Study」の1プログラムとして新たなダンスの普及計画が3月から始まることも確認していることから、当該プロジェクトの活動に期待しつつも、市が主体となり多様な人々の参画を促しながら普及、啓発に取り組むことが重要であると考えられる。